

使用説明書

製造発売元

株式会社 ミノグループ

【特 長】

- (1) ジアゾ感光剤はパウダータイプです。溶解が簡単で使用しやすくなっています。
- (2) 着色剤は、ご希望に応じて使用していただけます。
- (3) 感光剤を混入した感光乳剤を冷暗所に保管すれば、長期間の保存ができます。
- (4) 露光過度によるカブリも少なく、シャープで繊細な製版ができます。
- (5) インキの溶剤に対する変化、膨潤が少なく、優れた耐溶剤性を有しています。また、耐湿性も優れていて、高湿度中でも版のベタつきがありません。
- (6) 剥膜剤によるスクリーンの再生が可能です。

【包装状態】

1 k g セット	(A) 乳剤本体	1 k g 黒色ポリ容器	NET	900 g
	(B) ジアゾ感光剤	50 cc茶色ポリ容器	NET	6 g
	(C) 着色剤	30 cc無色ポリ容器	NET	20 cc
5 k g セット	(A) 乳剤本体	5 k g 黒色ポリ容器	NET	4,500 g
	(B) ジアゾ感光剤	250 cc茶色ポリ容器	NET	30 g
	(C) 着色剤	100 cc無色ポリ容器	NET	100 cc

【使用法】

- (1) 上記 (B) に 40℃位の温水 90cc (5kg の場合は 450cc) を添加して、充分攪拌する事によりジアゾ全量を溶解し均一なジアゾ水溶液を作ってください。(このジアゾ感光剤はパウダータイプで、溶解が簡単になっていますが、寒い時期には、水を入れると溶解困難な状態になる事がありますが、必ず全部溶解できますのでよく攪拌を行って溶解し、均一なジアゾ水溶液を作るようにして下さい)

以上ができましたら、乳剤本体 (A) の中に入れてよく攪拌混合を行ってください。(この場合、よく混合しないと製版時のトラブルの原因になることがありますので注意して下さい。)

着色剤 (C) はご希望に応じて使用して下さい。なお、混合は (B) を (A) に混合すると同時に行って良いのですが、色ムラのない様によく攪拌混合を行ってください。(着色剤を使用した場合は、紫外線の通過性が良くなりますので、露光時間は短くなり版の焼け具合が確認しやすくなります。また、ピンホールが確認しやすくなります。)
- (2) 感光剤が乳剤に均一に混合し、充分なじむよう1日以上放置してから使用して下さい。
- (3) スクリーンへの塗布はステンレスバケットで行ってください。塗布回数はスクリーンのメッシュや図柄により変えて下さい。
- (4) 乾燥は 40℃以下の暗所で行ってください。コーティング後は乾燥後、すぐに露光現像してください。塗りおきは出来ません。
- (5) 鮮明な画像と適切な耐久性を得る為には、正しい露光をする事が最も大切です。本乳剤はある程度の許容幅をもっていますが、露光テストをして最適条件を見つけてから使用して下さい。なお、露光時間は版の厚みにより異なります。厚い版は多くの露光を必要とし、薄い版は少なくなります。使用するスクリーンの厚み、塗布回数などにより変えて下さい。露光焼付に際してはポジフィルムの膜面とを充分密着させ焼付して下さい。
- (6) 現像は1～2分水中に浸漬して、画像が膨潤してきたらスプレーを用いて画像を抜きます。完全に現像ができましたら、よく水洗をして乾燥して下さい。
- (7) 乾燥後はもう一度露光(後露光)を行うか、強い日光(紫外線)に当てますとより強い製版が得られます。

※注 意

ジアゾ感光剤は高濃度溶液のため、体質によってはカブレ現象が起こるおそれがありますので、保護手袋を使用して下さい。又、万一皮膚に付着したときは速やかに水でよく洗って下さい。